

当院の生化学検査における結果承認作業の負担軽減と標準化に向けた取り組み

◎佐々木 宏典¹⁾、伊藤 萌¹⁾、青笹 真美¹⁾、原田 朋子¹⁾、藤井 秀也¹⁾、今井 佳美¹⁾
地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立総合医療センター¹⁾

〔背景〕当院の結果承認作業は、技師個人の経験則に依存し、標準化が図られていないこと、業務集中時の承認作業の遅れが課題であった。夜間休日の救急患者や病棟の急変患者の検体は、極端値やパニック値等の異常値に遭遇する頻度が高い。経験の浅い技師や専門外の技師が慣れた技師と同様に承認作業を行うには、承認手順をフロー化し、リアルタイムで活用可能な環境を構築することが必要だと感じていた。また、当院では前回値チェック等で再検対象となった検査値の結果承認が遅れ、クレームを受けた事例があった。再検対象となる検査値を減らすには限界があり、技師による承認作業は環境要因に影響を受けてしまう。それならば、技師が行う承認作業を検査システムで自動化することで、技師の負担軽減と作業の標準化、承認遅れの軽減が可能と考え、今回検討を試みた。

〔方法〕主要な項目において、結果承認の過程を示したフローチャートを作成した。次に、当院で使用中の臨床検査情報システム La-vietal LS (シスメックス CNA 株式会社) のルールロジックマスターを利用し、検査システムに分析

装置から測定値が送信されたタイミングで、フローチャート通りに結果判定を行うように設定した。このマスターは条件(検査依頼、検査値の高低、患者属性等)毎に行う処理(再検指示、結果確定、項目追加、コメント追加等)を指定できる。

〔結果〕今回の設定で、検査システムが結果判定を行い、特定の条件下で再検対象の検査値を自動確定することが可能となった。また、結果判定に利用した情報(AST/ALT、UN/CRE等)も結果確認画面に表示させ、後に遡及可能にした。他にも、希釈再検等で分析上再検が必要な場合には検査値に「要再検」と表示し、再検漏れを防ぐようにした。また、臨床連絡が必要な場合には検査値に「連絡値」と表示し、連絡状況を入力する項目を自動追加し、臨床連絡の記録も検査システム上に残すことにした。

〔まとめ〕検査システムを工夫して活用することで、結果承認作業の負担軽減と一部自動化が可能になった。結果承認作業のフロー化と自動化は、当院の結果承認作業の標準化に向けて大きな一歩となった。0835-22-4411 (内線 507)